

連載

エッセイ

No.07

ふひより つちどり
浮萍 一道 開く

● NPO 法人ホップ

障害者地域生活支援センター

代表理事 竹田 保

雪の少ない穏やかな日々が続いている。いつもなら、除雪車が道路の雪を跳ね除け、道路脇には数メートルもの雪山ができる。道路に面した事務所のまえは、除雪車が押し寄せた大量の雪で道路を走る車も見えなくなる。仕事始めは、排雪業者との打ち合わせを終えてから挨拶回りを行っていたが、今シーズンは除雪車を見た記憶がない。穏やかな天候が続いているが、北国に雪がないという異常気象なのだろう。

ここ数年、天候不良による災害の発生が多い気がする。広島、九州、関東、信越と日本地図に落とし込んだら、真っ赤な被害マップで覆い尽くされてしまう。

昨年、スウェーデンの少女が環境問題を訴え、大きな話題となった。彼女の鋭い指摘や辛辣な言葉に突き動かされた人、反感を感じた人、賛否様々だが、環境問題による温暖化の影響は気候変動として表れ、異常気象へと繋がっていることは、誰もが薄々と感じているのだと思う。私自身も、なんとなく環境を考えて生活しなければいけないと思うこともあるが、実際にはペットボトルに入ったジュースを飲んで過ごしている。

2020年北海道内では、スペシャルオリンピックス、東京オリンピック・パラリンピックのマラソン、競歩の札幌開催など多くのイベントが開催される。北海道もハード面でのバリアフリー化が進んで行くことになるだろう。北海道新幹線の札幌延伸によって、周辺施設の再開発、交通機関のバリアフリー化も進んでいくと思う。ハード面では着実にユニバーサル社会へと向かっているが、人材不足によるソフト環境の脆弱性に危うさを感じる。生活環境を集中させるコンパクトシティ構

想が地域の施設化を招きかねないと以前も指摘したが、介護人材不足はヘルパーのシェアを目的とした共同住生活による地域の施設化に拍車をかけることになる。

昨年の参議院選挙で重度の車椅子利用障がい者の議員が誕生した。重度障害者が働くことの現実を考えていなかった為か、様々な矛盾が発生した。障がい者が働くことを進めているが支援策は皆無と言っていい。働くためには、身支度をし、職場へ向かい、職場の中でもトイレや食事など必要に応じてサポートが必要になる。

働き方改革や人材確保の難しさもありコンビニ大手が正月休みの休業実験を行った。福祉業界の人材確保も、また悪化傾向に歯止めがかからない。とりわけ、重度障害者の在宅生活を支える支柱とも言えるホームヘルパー、介護職の不足は深刻で障害者・高齢者の支援力低下は著しい。すでに地域生活に支障をきたし病院、入所施設、ショートステイへの介護難民が続出している。

障がい者議員が新幹線の視察をおこなった時、国会議員の権利として利用できるはずの新幹線が、車椅子で車内に入ることができなかった。政府は改善をJRに求めることとなった。北海道新幹線はきっと、車椅子で使いやすい車両になると思う。外国人観光客もオリ・パラの開催もあり、増えることになると思う。交通機関、宿泊施設、商業施設など国際水準を意識したバリアフリー化が求められる。

先日、急用で信越地方へ行ったが、空港から先の交通手段を見つけるのに大変な思いをした。タクシー運転手から聞いた話では、十万人の人口に対して福祉タクシーは3台のみで、JAPANタクシーも一度も見たことがないと話されていた。連携した交通ユニバーサルが必要なのだと思う。

今年こそ、このまま穏やかな日々が続き災害の無い一年であってほしいと思う。私自身は穏やかな天候の中、スウェーデンの少女を見習って、社会の批判を恐れることなく、指摘できる口うるさいジジイになっていきたいと思っている。